

令和 7 年度

「運営に関する計画」

やたなか小中一貫校
大阪市立矢田小学校
大阪市立矢田南中学校

令和 7 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の大きな課題の一つとして学力向上があげられる。全国学力・学習状況調査の結果をみると、全国・大阪市平均を下回る傾向であったが、近年、経年調査・チャレンジテストにおいて、小学校で平均を上回る学年や、中学校では大阪市平均に近づきつつある傾向がみられる。学力の向上に向けて、習熟度別・少人数授業の拡充や小中連携による授業力の向上、漢字検定の継続実施や自主学習の推進に取り組んできた成果が表れていると考えるが、今後も継続して、基礎的・基本的な学習内容の定着、児童生徒の自尊感情の涵養、学習習慣の定着を課題として取り組んでいく。これらの課題に対して、様々な取り組みを通して「仲間と協力し、自ら学び続ける態度と意欲を高め、自他を思いやる心を育てる」という学校教育目標を達成し、魅力ある学校づくりを目指して教育活動を行う。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和 7 年度末の小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80% 以上にする。
- ・令和 7 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を令和 4 年度より減少させる。
(令和 4 年度 小 9.65% 中 10.23%)
- ・令和 7 年度末の校内調査において、不登校児童の改善の割合を令和 4 年度より増加させる。
(令和 4 年度 小 0.33% 中 0 %)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和 7 年度末の小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童（生徒）の割合を 33% 以上にする。
- ・令和 7 年度末の小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における国語および算数（数学）の平均正答率の対全国比（対府比）を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 0.1 ポイント向上させる。
- ・令和 7 年度末の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76% 以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75% 以上にする。
- ・令和 7 年度末の大都市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 59% 以上にする。
- ・令和 7 年度末の小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 67% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）
- ・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務労働時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 75% 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ①小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を86%以上にする。（昨年85.9%）
- ②年度末の校内調査において、不登校児童生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
(昨年 小：4.7% 中：20.8%)
年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を増加させる。
(昨年 小：0% 中：40%)
- ③令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。
- ④令和7年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童生徒の割合を前年度より減少させる。
(昨年 小：2.8% 中：0%)
- ⑤令和7年度末の校内調査において、「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答の割合を80%以上にする。（昨年79.3%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童（生徒）の割合を42%以上にする。（昨年41.5%）
- ②小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における国語および算数（数学）の平均正答率の対全国比（対府比）を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。
(昨年 3年：国1.03 算1.00 4年：国0.96 算0.96 5年：国0.96 算1.05
6年：国0.72 算0.89 7年：国0.83 数0.93 8年：国0.92 数1.06)
- ① 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。（昨年82.6%）
- ④大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を59%以上にする。（昨年30.8%）
- ⑤小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。（昨年69.5%）
- ⑥小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を67%以上にする。経年調査（65.1%）校内調査（76.3%）
- ⑦令和7年度末の校内調査において、「学習したことがよくわかる」の肯定的回答の割合を87%以上にする。（昨年86%）
- ⑧令和7年度末の校内調査において、「進んで授業に参加している」の肯定的回答の割合を90%以上にする。（昨年89.6%）
- ⑨令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、課題である反復横跳び（小学校）・長座体前屈（中学校）の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。
(昨年 小：34回 中：43.1cm)
- ⑩令和7年度末の校内調査において、「起きる時間や寝る時間が決まっていて、毎日規則正しい生活を送っている」の肯定的回答の割合を69%以上にする。（昨年68.6%）

【学びを支える教育環境の充実】

- ①授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）
- ② 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務労働時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を75%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

やたなか小中一貫校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】	
①小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を86%以上にする。（昨年85.9%）	
②年度末の校内調査において、不登校児童生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 (昨年 小：4.7% 中：20.8%)	
年度末の校内調査において、前年度不登校児童生徒の改善の割合を増加させる。 (昨年 小：0% 中：40%)	
③令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。	
④令和7年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童生徒の割合を前年度より減少させる。 (昨年 小：2.8% 中：0%)	
⑤令和7年度末の校内調査において、「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答の割合を80%以上にする。（昨年79.3%）	
【未来を切り拓く学力・体力の向上】	
①小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童（生徒）の割合を42%以上にする。（昨年41.5%）	
②小学校学力経年調査（中学校チャレンジテスト）における国語および算数（数学）の平均正答率の対全国比（対府比）を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。 (昨年 3年：国1.03 算1.00 4年：国0.96 算0.96 5年：国0.96 算1.05 6年：国0.72 算0.89 7年：国0.83 数0.93 8年：国0.92 数1.06)	
① 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。（昨年82.6%）	
④大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を59%以上にする。（昨年30.8%）	
⑤小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。（昨年69.5%）	
⑥小学校学力経年調査（年度末の校内調査）における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を67%以上にする。経年調査（65.1%）校内調査（76.3%）	
⑦令和7年度末の校内調査において、「学習したことがよくわかる」の肯定的回答の割合を87%以上にする。（昨年86%）	
⑧令和7年度末の校内調査において、「進んで授業に参加している」の肯定的回答の割合を90%以上にする。（昨年89.6%）	
⑨令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、課題である反復横跳び（小学校）・長座体前屈（中学校）の平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。 (昨年 小：34回 中：43.1cm)	
⑩令和7年度末の校内調査において、「起きる時間や寝る時間が決まっていて、毎日規則正しい生活を送っている」の肯定的回答の割合を69%以上にする。（昨年68.6%）	
【学びを支える教育環境の充実】	
①授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）	
②第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務労働時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を75%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策1 安全・安心な教育環境の実現】 児童会、生徒会、生活委員会を中心にあいさつ運動を学期に1回行い、集会やポスター等でも啓発する。 指標(小77.9 中57.1 全70.4) 学校評価アンケートにおいて「自分から進んで、元気よくあいさつができている」の肯定的回答の割合を71%以上にする。		
取組内容②【施策2 豊かな心の育成】 互いの良さを認め合い、自尊感情を向上させる集団づくりを育成し、全クラス集団づくりを全教職員で考え進めていく。 指標 いじめ(小98.8 中91.9 全96.3) よいところ(小80.3 中73.5 全80.0) 学校評価アンケートにおいて「いじめを許さない心を持ち、友だちと仲良く支え合っている」の肯定的回答を97%以上、「自分にはよいところがある」を80%以上にする。		
取組内容③【施策2 豊かな心の育成】 人権を尊重する教育の推進を図るために、さまざまな教育活動の中で、児童・生徒一人一人が成就感をもてるように指導し、自尊感情を育む。 指標(小97.7 中77.5 全90.4) 学校評価アンケートにおいて、「一人一人が大切にされている」の肯定的回答の割合を80%以上にする。		
取組内容④【施策2 豊かな心の育成】 今年度の研究目標達成に向けて、協働して意欲的に学ぶことができる対話的活動について教職員全体で検討し学校全体で取り組む。 指標 協働して意欲的に学ぶことができる対話的活動について議論や実践をし、研究授業や相互参観を全教員が年1回以上行うことで、成果と課題について総括する。		
取組内容⑤【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】 ICTなど様々な手法を用い、児童生徒が達成感を得られ、意欲的に学習に向かう姿勢を促す授業づくりを行うため、研究授業や校内研修など年間計画に従って実施する。また、放課後の補充学習やモジュール学習を見直し、基礎学力の向上をはかる。 指標 進んで(小95.4 中79.6 全89.6) よくわかる(小93.0 中73.5 全86.0) 小中合同の研究授業を2回以上行い、児童生徒が主体的・能動的に参加できる授業づくりに、小中連携して取り組む。また、学校評価アンケートにおいて「進んで授業に参加している」と「学習したことがよくわかる」の肯定的回答の割合を83%以上にする。		
取組内容⑥【施策6 健やかな体の育成】 体力向上に向け、各授業の初めにトレーニングの時間を設ける。前年度の体力テストの結果をもとに授業内容を工夫する。 指標(小「反復横跳び」35.4 中「長座体前屈」75 全57.7) 体育の授業の持ち方を工夫する。また、個々の目標を具体的に設定し、前年度の結果を上回る児童・生徒の割合を70%以上にする。		
取組内容⑦【施策6 健やかな体の育成】 運動部の活性化や、集会・運動タイムの取り組みを充実させ、運動に親しむ機会を増やす。 指標(小87.2 中57.1 全76.3) 学校評価アンケートにおいて、「体を動かしたり運動したりすることが好きである」の肯定的回答の割合を77%以上にする。		
取組内容⑧【施策6 健やかな体の育成】児童・生徒の委員会活動を中心に「規則正しい生活習慣をつける」ことの大切さについて呼びかける。 指標(小77.9 中55.1 全68.6) 「起きる時間や寝る時間が決まっていて、毎日規則正しい生活を送っている」の肯定的回答の割合を65%以上にする。		

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点